

中執ニュースレター No.2

2005年3月1日発行

東京農工大学職員組合 中央執行委員会

今月号の内容

退職者歓送会のお知らせ	1
第2回中央執行委員会の報告	1
慶弔規定 ご存じですか	2
職場代表者が選出されました	2
前執行委員の退任あいさつ	3
2月の活動	4
編集後記	4

退職者歓送会のお知らせ

この3月に退職・異動される森脇敦子さん、沖愛子さん、久保徳継さん、野村正人さんをお招きして、永年の組合活動の労をねぎらい、今後も組合活動のご指導をお願いする気持ちを込めて、歓送会を開きます。事情があって少し前まで組合員だった退職予定者にも出席いただくことにしています。皆様のご参加をお待ちしています。

日時：3月17日（木）18：00より

会場：農学部福利厚生センター 二階 『オリザ』

第2回中執委員会の報告

第1回中執委員会を2月15日に開き、年間活動計画を決めました。未確定な部分もありますが、今年度はレクリエーションなどのイベントをたくさん計画しました。心身共にリフレッシュしていただけるものと考えています。主な計画は次の通りです。積極的なご参加をお願いします。

3月	退職者歓送会
4月	春闘要求書、花見の会（府中）、野草を食べる会（小金井）、職場集会
5月	メーデー、職場集会
6月	学長・部局長交渉
7月	サッカー観戦（府中）

8月	平和行動、暑気払い(小金井)
9月	むささび観察会
10月	職場集会
11月	学長・部局長交渉、年忘れボーリング大会(府中支部)
12月	中央大会、各支部総会

技官の会や女性の会など、ネットワークづくりにも積極的に援助していきます。

その他の議題は次の通りです。

1. 退職者歓送会、2. 組合費改定について、3. 学長あいさつの報告、4. 組合費の納入状況、5. 住宅委員会委員、6. 書記の雇用契約について、7. 半数代表者会議の議事について、8. 春闘学習会「団体交渉ってどうやるの」報告、9. 組合員名簿について、10. ニュースレターの発行について

今年度の住宅委員を次の方をお願いすることになりました。宜しくお願いします。

府中地区 土屋俊幸さん、鈴木馨さん、林谷秀樹さん

小金井地区 室尾和之さん、新井紀夫さん、熊谷義直さん

組合費の改定については、執行委員会の内部にWGを置いて、検討することにしました。

慶弔規定 ご存じですか

組合の慶弔規定って、ご存じですか。組合員の結婚(3万円)やお子さまの誕生(1万円)など慶事に対してはお祝い金を、ご不幸などの弔事に対してお見舞い金を差し上げております。詳しくは職場代表者の方や組合事務室までお問い合わせ下さい。今年度は40万円の予算を計上しています。

職場代表者が選出されました

2005年度の職場代表者は次の方々です。

【府中支部】

(生物生産)大川泰一郎さん、(応用生物1)未定、(応用生物2)辻村秀信さん、(環境資源)堀江勝年さん、(地域生態1)大里耕司さん、(獣医)田中知己、(FSセンター)島田順さん、(図書館)小林浩樹さん

【小金井支部】

(C科)柴本緋紗さん、(P科)尾形美枝子さん、(M科)佐藤美代子さん
(K科)篠原千恵子さん、(BASE)荻野賢司さん、(図書館)坂本みとせさん
(G科)田中邦明さん

前執行委員の退任あいさつ

小島 喜孝（中執委員）

日本から国の設置する国立大学がなくなった日、法人設置大学に切り替わった日、2005年4月1日以後、事務局に「理事」というプレートが目につく以外、東京農工大学構内はまるで何もなかったかのように見える。入試シーズンがきた今、新聞の倍率情報でも「国立大学」とある。国立大学設置法はすでに04年7月16日「国立大学法人法等の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律」（05.4.1施行）により廃止されている。国にすれば、法人化は「明治以来の大改革」（「国立大学法人...の発足にあたって」河村建夫文科大臣談話、05.4.1）である。主権者にほとんど知られないままの「明治以来の大改革」。「改革者」側が知られたくないのか、知ってほしいのに主権者が知ってくれないのか、どっちなのだ。そして、「改革」と主権のこの溝はどう機能するのだろうか。

この日本史的な転機に、執行委員であった私は何ができたか心もとない。当時引継コンパで、「法人大学になる日に大学正面の櫓に囲まれ記念集会をやりましょう」と挨拶したものの、それもできなかった。2年前、委員長の時に中執がかなり力を注いだ「農工大憲章」づくりもその後蔵入りしたままている。せいぜい就業規則を少しでもまともにするに、亀山純先生に叱咤され忙殺されたのが正直なところであった。そして、法人初の学長選考にあたって2候補への組合公開質問状とその回答を、石井先生と二人で生協前に立看板をたてた。淵野委員長のアイディアだったが、立看板にさわるのは何十年ぶりか。意向調査職員参加があっても管理職以上とされることがせいぜいの中で、ここ農工大のは事務・技術含めて全員参加という画期的な制度である。これを作られた方々の努力を生かすべく、一人ひとりの職員の目にふれることを意識してのことであった。

大学に何かできごとがあるたび、「実は国立でなく法人立になったんです」と、05年が振り返られていく。「実は...」「実は...」と繰り返しながら、「改革」と主権の溝は埋まっていく。「良かったね」「騙されてたのか」のどちらで埋まるか、新しさを作るその時々判断がそれを左右するだろう。職員評価制度がどういうものになるかも、その重要な一里塚だと思う。評価国家、評価社会、結果による評価……。職務という部分社会の結果を急かされるうち、部分につながるかもしれない根底がやせ細りはしないか。人間の結果は死ぬ時にしか分からない。いや、死んでからかもしれない。評価制度は直線的因果関係論にとらわれ短絡することなく、せいぜい励まし刺激程度に位置づけられることが根底のやせ細りを防ぐのではないか。東京都教委が制度化した公立校教員人事考課制度は、下位評価の給与を切り取って上位評価にもっていく原資を増やさないやり方だ。いわば賞罰セットの評価制度である。罰は懲戒制度があるのに。評価と懲戒をごっちゃにすると混乱する。

それにしても、組合で知りえた農学部(一部工学部)の方々は、みなまじめだ。講座や専攻、一部F Sの方たちといった私の農工大世界を組合が広げ、2回の執行部で、

感心する方たちの存在を知った。ありがとうございました。（200字制限ということでしたが、想うことと感謝をつらつら書かせていただきました。）

2月の活動

- 2/7 書記局員会議
- 2/8 中央執行委員会ニュースレターNo.1配信
- 2/9 学長への新旧執行委員あいさつ
- 2/14 府中支部執行委員会、
小金井支部執行委員会
- 2/14 農学部長への新旧執行委員あいさつ
- 2/15 第2回中央執行委員会
- 2/16 中央会計引継
- 2/24 府中支部職代会
- 2/24 労金との話し合い



編集後記

昨年秋、妻と2歳の男の子、そして3月に誕生予定の女の子と私で4人家族になるのを控え組合に加入しました。いきなりの大任で緊張しますが、今後も大学が働きやすい環境であり続けることを願い、任期中精一杯がんばって行きます。若輩者なので、色々とお小言・意見を言いやすいと思います。是非、色々とお話をいただければと思います。

(熊谷)

発行 2005年3月1日
東京農工大学職員組合中央執行委員会
TEL: 042-367-5797 (府中)
042-388-7202 (小金井)
E-mail: kumiaif@cc.tuat.ac.jp